

若年性認知症支援力向上研修
実施報告

【日 時】 平成 30 年 7 月 13 日(金) 午前9時 30 分～12 時 30 分

【場 所】 練馬介護人材育成・研修センター

【内 容】 介護サービス事業所における
「若年性認知症の人への支援力向上のポイント」
講師:ミニケアホームきみさんち 理事長／林田俊弘 氏

【参加状況】 参加者:20 名

アンケート提出者:20 名(回収率:100%)

1 参加者の属性

通所サービス 介護職・生活相談員	2名	10%
居宅介護支援事業所 ケアマネジャー	10名	50%
施設サービス 介護職・生活相談員・機能訓練指導員	3名	15%
地域包括支援センター 介護職・その他	0名	0%
地域密着型サービス ケアマネジャー・介護職・	0名	0%
訪問サービス サービス提供責任者	4名	20%
その他(福祉事務所) その他	1名	5%

2 講演会の参考度

よく理解できた	12名	60%
理解できた	7名	35%
理解できなかった	1名	5%

仕事によく活かせる	13名	65%
活かせる	5名	25%
活かさない	2名	10%

満足度 10点	12名	60%
9点	2名	10%
8点	3名	15%
7点以下	3名	15%

3 感想（抜粋）

- ⌘ 若年性認知症の人との関わりは今までないが、老人性認知症の人との違いを分かりやすく講義していただき、理解が深まった。年齢に違いはあっても、人は人、理解を深め、信頼関係を結ぶことが大切と思った。
- ⌘ 認知症にかぎらず若いご利用者が増えており、ご本人の悩み・家族も若い、一般的なサービスが当てはまらない（ニーズもない）等、悩みながら関わっています。参考になりました。向き合う自分自身の年齢立場（嫁・妻・子有無）で理解や関係性に影響してくると思いますが、こういった研修を多くの人が受けることで、一定のレベルの支援が提供できるようになると良い。（知識不足で相手を傷つけないように）
- ⌘ 認知症の人としてかかわるのではなく、その人自身の人柄や考えていることを感じとりながらケアしていきたいと思います。
- ⌘ 若年性認知症だけでなく、たずさわる者としての学びがありました。『違いはあっても人は人』なのだということ、心に残りました。
- ⌘ 若年であろうが、高齢であろうが、認知症症状が重い軽い関係なく、一人の人間としてしっかり向き合い、信頼関係を築き、デイに来ると楽しい！安心！と言ってもらえるように実践していきたい。
- ⌘ 若年性認知症の方だけではなく、普段関わりが多い高齢の方についても接し方や関わり方を考えていかなければならないと思いました。
- ⌘ 認知症の方への対応がとても参考になりました。認知症だからと言っても仕方ない、忘れるではなく、その方の気持ちを考えた支援ができるようにしたいです。
- ⌘ 「共有する感覚」実行してみようと思いました。
- ⌘ 認知症のある方への接し方を注意していきたい。
- ⌘ ケアする側の自己満足にならない対応を心掛けること＝（イコール）相手の尊厳を守ることにつながる。
- ⌘ 押し寄せてくる恐怖や不安から、少しでも解放できることができるなら、介護者との関わりを考え接していきたいと思う。
- ⌘ 認知症の方に対する様々な対応
- ⌘ 認知症等は、色々な情報を含め漠然とではあるが分かっているが、若年性となれば、全くTVで知る限りで理解不十分であった。
- ⌘ 「認知」「精神」と利用者と判断が多い職場が多く、違和感を感じていました。居宅サービスなのですが、その利用者の理解は、施設と違う視点で難しく参考になりました。（例：一緒に過ごす時間が少ない）
- ⌘ 急に不穏になった場合、言葉がまるで聞き取れないため、いつも聞き取れた言葉を拾い、その言葉を復唱し、“そっか、頭きたんだ～”と答えていましたが、今度からは、一歩踏みこみ、間を取って聞き返すようにしてみたいです。
- ⌘ 正直言いたい事はなんとなく判りましたが、実践はできません。